

編集後記

4月になり、卒研究生が研究室に配属されてきました。私が所属する学科(専攻)では、卒研究生のほとんどは同じ研究室に残って修士に進学することが多いので、これから3年間のお付き合いが始まることになります。その1週間前には3年間大学生活をともに過ごした学生を送り出したばかりだといふのに、その感慨に浸る間もなく騒々しい日々がやってきます。学生との年齢差は広がるばかりなのに、当方はいつまでたっても「年をとってない」と錯覚することができる貴重な瞬間です。

私が所属する、いわゆる機械工学科では、名称に「プラズマ」を冠した講義はありません。研究室に配属されるほとんどの学生はプラズマが何たるかを知らないにも関わらず、プラズマに関わる研究テーマは意外にも(?!)人気があります。「プラズマって凄そう」、「面白そう」、「何でもできそう」・・・などと思わせる響きがあるようです。かく言う私も、「何かブレークスルーを起こしてくれそう」なプラズマのアバウトな一面が大好きです。

機械工学の各分野は、学問としての体系化が概ね完了し

ていると考えられています。産業界になくはならない分野ですが、基礎研究となると少し話は違い、とりわけノーベル賞級の大発見はありうるか?という質問には「ノー」と答える人が多いようです。一方、成果が目に見えてわかりやすいので学生には人気があります。就職活動の際、受け入れ企業の選択肢が広いのも機械工学を志望する理由の一つのようです。

さて、プラズマはどうでしょうか。プラズマ理工学は複合領域などによれば、いつの時代も未踏領域を開拓しながら対象とする学際領域を拡大しているダイナミックな分野だと思っています。その都度「学術的な体系化」が問われるわけですが、反面、人々の知的好奇心を刺激してやみません。異分野の研究者が相互に乗り入れできるプラットフォームとしても重要な役割を担っており、人事が滞らないことにも好感を持っています。今後、プラズマ理工学が機械工学にも広く浸透し新風を巻き起こす日がやってくるのでしょうか。将来、そんな仕事に貢献できればいいなあ、などと偉そうなことを思っている今日この頃です。

(野崎智洋)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	松田慎三郎	副 会 長	佐藤浩之助	三間 罔興	常務理事	中村 幸男 (総務委員長)
理 事	秋山 秀典 (企画委員長)		板垣 正文		今井 剛 (広告委員長)	
	奥野 健二 (プログラム委員長)		尾崎 章		加藤 敬 (財務委員長)	
	佐野 史道		田中 和夫 (編集委員長)		寺井 隆幸	
	畠山 力三		畑山 明聖		浜口 智志 (出版委員長)	
	本島 修		森 雅博 (広報委員長)			
監 事	藤山 寛		松尾 慶一			

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター 田中和夫 (阪大)

エディター 関子秀樹(九大), 田中雅慶(九大), 福山 淳(京大), 村上匡且(阪大), 室賀健夫(核融合研), 行村 建(同志社大)

編集委員 石黒静児(核融合研), 大矢恭久(静大理), 越智義浩(原子力機構), 加藤太治(核融合研), 北島純男(東北大院工), 北野勝久(阪大院工), 小口治久(産総研), 後藤基志(核融合研), 佐伯紘一(静大理), 酒井 道(京大院工), 榊原 悟(核融合研), 佐藤紘一(京大原子炉研), 佐藤 聡(原子力機構), 佐藤杉弥(日本工業大工), 高山有道(核融合研), 田中照也(核融合研), 谷口和成(京都教育大教育), 長崎百伸(京大エネ研), 長友英夫(阪大レーザー研), 浪平隆男(熊大院自然), 野崎智洋(東工大院理工), 畠山賢彦(東北大金研), 花田和明(九大応力研), 林 伸彦(原子力機構), 平田孝道(武蔵工大工), 平松美根男(名城大理工), 吉川正志(筑波大院数理), 吉田弘樹(岐阜大工)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第84巻第5号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: <http://www.jspf.or.jp/> 定価1,365円(本体1,300円)

印刷 株式会社荒川印刷

2008年(平成20年)5月25日

本誌に掲載された寄稿等の著作権は(社)プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月第1火曜日に開かれています。但し、都合により変更になる場合があります。